

は し が き

本年度の研究報告の一つとして「研究報告第104号」を刊行いたします。

この報告は、子供に「学ぶ方法を体得させる」ための一つの方法として、学習指導での「調べ学習」を重視し、その際の諸問題点を克服する方途を具体的な実践を通して明らかにしようと試みたものがあります。

本来、それぞれの教科の指導目標は、単に知識の定着のみに終わらず、「学び方」をも含めたものであります。具体的な学習指導の場面では、子供の問題意識を大切にし、その解決への過程で子供自身が学ぶことが大切です。「学び方」は、学ぶことを通さない限り子供の身につけることは困難だからであります。

学校図書館を学校教育の中核に据えて、子供自らが問題を解決していくような学習指導の試みは、以前から提唱されてきました。しかし、たてまえとしての理論が先行して実践が伴わない傾向が見られました。実践として具体化しようとする、施設・設備、資料や時間の不足、成果の個や集団における広がりや転移の不十分さなど、多くの隘路があったことが推察されます。そして、このような問題点は、現在でも解消されているわけではありません。

今日、学校教育に対して「自己教育力の育成」や「生涯学習を見通した学習指導」など子供一人一人の「学び方の習得」に関わる要請が寄せられています。この報告がそれらの期待に応えるとともに学校図書館の在り方を問い、併せて学校図書館の活性化が図られることを期待しております。御一読頂き御批判を頂ければ幸いです。

終わりに、本報告をまとめるに当たり快くご協力を頂いた新潟市立白山小学校 清野一男先生、新潟市立関屋小学校 阿部清子先生、新潟市立上所小学校 水本俊子先生に敬意と謝意を表すとともに、当該校の校長先生はじめ諸先生がたに心からお礼を申し上げます。

平成元年3月

新潟県立教育センター

所長 長谷川 武 雄